

【津波で流出した石巻の漁船が糸満で発見される】 船主との再会、そして第二の人生へ



比較的良好な状態で発見された震災漂流物は『すぐにも持ち主に返してあげたい』と思われがちですが、発災から3年以上が経過していることもあり、取り扱いにはこまやかな心配りが必要となります。

発見の知らせを受けた松川さんは、取材に対し「12年使っていた船だから愛着はあるが、沖縄までは見に行けない。今は新しい船に同じ名前を付けて使っている」と話した。

2管本部によると、16日午前6時ごろ、同市の北名城ビーチで通行人が30メートル沖合を漂流する船を発見し、通報した。那覇海上保安部の職員が船体番号などを調べたところ、石巻市牡鹿町泊浜、松川一雄さん(74)所有の漁船「松丸」(0.8トン、長さ6.05メートル)と分かった。船体は原型をほぼとどめており、作業着やロープなどが残されていた。同保安部から引き渡しを受けた糸満市は、松川さんの意向を確認し取り扱いを決める。



船体番号プレートを引き渡された松川さん(右)と、ハマスーキの上原謙さん(手にはしている日本酒は、宮城県黒川郡の『雪の松島』)なによりも船主である松川さんご自身が無事であったからこそ実現した再会。海人の町・糸満で見つけたことにも縁を感じます。

その後、各方面で調整が進められ、船は「糸満海人工房」を運営するNPO法人ハマスーキが管理することになりました。また、多くの人の支援を受け、5月30日、所有者の松川一雄さん(74)が糸満市を訪れ、3年2カ月ぶりに漁船と再会しました。

松川さんは「ウニやアワビ漁で11年近く使用していた船です。愛着もあり、津波で流された時は悲しかった。長い時を経て糸満市で見付かり、今日、こうして再会できたことは感無量です。かわつたすべての人に感謝します」と話しました。

漁船は今後、海のふるさと公園内で展示されるほか、震災の教訓として子どもたちへの講話などで活用される予定です。

【訃報】RQ歌津・天狗のヤマ学校の蜘蛛仙人(スパイダー)さん急逝



6月3日、歌津の野の花を持ち寄って「スパイダーを偲ぶ会」が営まれました。

『子どもキャンプ』『被災地で学ぶワールドキャンプ』『山の道復興プロジェクト』など、独自の活動で歌津地区の復興に尽力してきた歌津のスパイダー、蜘蛛仙人こと八幡明彦さん(51歳)が5月31日昼、交通事故で急逝しました。南三陸町志津川から歌津へ向かう途中のことです。

震災直後の6月から歌津にRQのボランティアとして入り、「歌津てんぐのヤマ学校」をつくったスパイダーは、現地に住所を移して活動を継続。歌津の子どもたちには、現地に遊びと学びの先生であり、歌津の自然や歴史、伝統の再発見に尽力する研究者であり、彼と関わったすべての人に影響を与え、誰にも真似できない深い生き方を実践させてくれた人でした。歌津の山や海辺を天狗のように飛び回るために、一念発起して自動車免許を昨年末に取得。ヤマ学校のシンボルだった「ねこバス」運転中の事故だったそうです。

誰よりもご本人が一番残念だったろうと思います。謹んでご冥福をお祈りいたします。

we support!
RQ
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

JUNE
11
2014



↑2011年8月、第2回子どもキャンプの最終日に突然あらわれた『天狗からのメッセージ』